

# 平成28年度 長岡市の財務書類4表(一般会計等)概要版

統一的な基準

## 貸借対照表

長岡市が保有している土地や建物などの財産(資産)の合計と、その財産を築くための財源(自己資金や借入金など)の合計を、年度末時点で左右に並べて比較した表です。

これにより、現在までに整備された資産の財源構成のうち、将来返済しなければならない負債(他人資本)と、返済を要しない純資産(自己資本)を把握することができます。

資産	5,287 億円
これまでに取得した資産 (土地、建物、基金や現金等)	
【内訳】	
1 有形固定資産等	4,876 億円
2 投資その他の資産	298 億円
3 流動資産	113 億円
うち現金預金	32 億円

負債	1,708 億円
将来の世代が負担するもの (地方債、退職手当引当金等)	

純資産	3,579 億円
これまでの世代が負担したもの (固定資産等形成分、余剰分(不足分))	

## 行政コスト計算書

貸借対照表に計上されない人的サービスや給付サービスなどの資産形成につながらない行政サービスに要した経費(コスト)と、それに対する受益者負担分(収益)を表した財務書類です。

経常費用(A)	1,014 億円
【内訳】	
業務費用(人件費、物件費など)	624 億円
移転費用(補助金等、社会保障給付など)	390 億円

経常収益(B)	33 億円
行政サービスの受益者負担分である使用料や手数料など	

純経常行政コスト(C)=(A)-(B)	981 億円
経常費用から経常収益を差し引いた、経常的な行政活動によって生じたコスト	

臨時損失(D)	3 億円
災害復旧事業費や資産除売却損など	
臨時利益(E)	2 億円
資産除売却益など	

純行政コスト(F)=(C)+(D)-(E)	982 億円
-----------------------	--------

純経常行政コストに、臨時損失・臨時利益を加減した、全行政活動によって生じたコスト

## 純資産変動計算書

貸借対照表の「純資産」について、1年間でどのような増減があったかを表す財務書類です。

前年度末純資産残高(A)	3,591 億円
--------------	----------

本年度純資産変動額(B)	△ 12 億円
【内訳】	

純行政コスト	△ 982 億円
財源(税收等、国県等補助金)	967 億円
その他(無償所管換など)	3 億円

本年度末純資産残高(C)=(A)+(B)	3,579 億円
----------------------	----------

## 資金収支計算書

1年間の資金の増減を「業務活動」、「投資活動」、「財務活動」の活動別に示したものです。

前年度末資金残高	35 億円
----------	-------

本年度資金収支額	△ 12 億円
【内訳】	

業務活動収支	61 億円
投資活動収支	△ 65 億円
財務活動収支	△ 8 億円

本年度末資金残高(A)	23 億円
-------------	-------

前年度末歳計外現金残高	9 億円
本年度歳計外現金増減額	0 億円
本年度末歳計外現金残高(B)	9 億円

本年度末現金預金残高(A)+(B)	32 億円
-------------------	-------

市民1人当たり換算すると

	(H28)	(H27)	(対前年度比)
★資産は…	192万3千円	191万4千円	+9千円
★負債は…	62万1千円	61万6千円	+5千円